

三條南ロータリークラブ週報

Sanjo Minami Rotary Club

2010. 3. 8

No.1945
No.28



出席率	会員54名中35名
先々週の出席率	89.58%
ゲスト	三条信用金庫法務監査部長 佐川正博様
先週の メイクアップ	3/2 三条北RCへ 葺澤喜一郎君 嘉瀬 修君 草野恒輔君 丸田肇一君 西巻克郎君 野島廣一郎君 佐々木常行君 3/2 2580地区東京北分区IMへ 鈴木 武君 3/3 三条RCへ 葺澤喜一郎君 3/3 3800地区マッチング グラウト協議会へ ~6 三野輪明人君 野崎正明君



会長挨拶

三條南ロータリークラブ 会長
佐藤 嘉男

ご挨拶させていただきます。

3月3~6日、フィリピンR1第3800地区との親善交流会に地区財団副委員長の野崎さん、三野輪さん、出席大変ご苦労様でした。

土曜の未明 2 時過ぎに、娘の嫁いだ燕の家が火事になり、一日大騒ぎでした。外壁の一部を焼いたボヤで済んだのですが、消火のため 2 部屋が水浸しになり、昨日もまだ煙の臭いが残っており大変です。2 時頃、部屋に付けていた火災報知器が鳴り、煙に気づいて通報したらしいのですが、6 台もの消防車が来て大変だったそうです。娘と 2 歳の孫が避難して来まして、初めて孫と 2 人きりで過ごし、大騒ぎの日曜でした。火災報知器は重要ですので、まだ設置されていない部屋がありましたら必ず付けられることをお勧め致します。

先月の 25 日に厚生労働省は、非喫煙者が他人のたばこの煙を吸わされる「受動喫煙」が健康に悪影響をもたらすとの認識が年々高まっているため、飲食店や百貨店など公共的な施設に、建物内での全面禁煙実施を求める通知を出しました。不特定多数が出入りする施設だけでなく、屋外でも公園などは、禁煙を検討するよう自治体に求めています。また、来年の通常国会に、職場での労働者の受動喫煙を防ぐよう義務付ける労働安全衛生法の改正案を提出予定です。

WHO が完全禁煙の法制化を各国に求める中、今回の通知には国の姿勢として「全面禁煙」の狙いがあるみたいですが、習慣的に喫煙している人は、08 年調査で、5 年前より 5.9% 下降の 21.8% であり、内男性だけですと 10% 下降してもまだ 36.8% が喫煙しています。

四つのテスト

一言行はこれに照らしてから

- I 真実かどうか
- II みんなに公平か
- III 好意と友情を深めるか
- IV みんなのためになるか どうか



国際ロータリー会長 ジョン・ケニー [スコットランド]
第2560地区ガバナー 植木 康之 [柏崎]
第4分区AG 米山 忠俊 [三条北]
会 長 佐藤 嘉男
幹 事 荒澤 威彦
S A A 熊 倉 高 志

事務局 〒955-8666 三條市旭町2-5-10
三条信用金庫 本店内
TEL 0256-35-3477 FAX 0256-32-7095
E-mail info@sanjo-minami.jp
URL http://www.sanjo-minami.jp

自分の健康に責任を持ち、ささやかな楽しみを持ち続けたいという人から、無理やりに取り上げることは出来ないし、愛煙家の権利も認めてほしいものです。

たばこは、10月から1本10円、1箱200円の大増税になります。今年のサラリーマン川柳の入選作にこんな作品がありました。

喫煙の 場所なくなり 税増える



フィリピン、マカティ市内のホテルにて、第3800地区とのマッチンググラント協議会が開かれました。当クラブより地区ロータリー財団副委員長の野崎正明会員、三野輪明人会員が出席、比での今後実施される社会奉仕事業について話し合われました。また2クラブの例会にメークアップされ、バナー交換されました。

幹事報告

荒澤 威彦 幹事

ハイチ地震災害義援金へのご協力をお願い

お一人1,000円の協力をお願い致します。クラブよりUS \$600を義援金として送金致します。

ニコニコボックス

NIKO-NIKO BOX

~ 3月8日 11,000円
今年度累計 492,000円~

- 三条信用金庫 佐川様** 本日の卓話、宜しくお願い致します。
- 佐藤(嘉)君** 本日の卓話、三条信用金庫の佐川様、よろしくお願い致します。一昨日娘の嫁ぎ先がボヤで大騒ぎでした。
- 荒澤君** 野崎さん、三野輪さん、地区マッチンググラントご苦労様でした。
- 鈴木(囃)君** 本日、卓話を信用金庫理事の佐川正博様にお願ひ致しました。宜しくお願いします。
- 馬場(信)君** ・三信 佐川理事の卓話を期待しています。
・野崎さん、三野輪さん、RI第3800地区との親善交流会を無事に終えられ、お疲れ様でした。
- 西巻君** 本日の卓話、佐川様 お忙しい中ありがとうございます。勉強させていただきます。

- 野崎君** 3月3~6日、当地区財団・国際奉仕合同委員会14名にて、フィリピン3800地区へ社会奉仕事業でありますマッチンググラントの視察に行つて来ました。今後は次年度で検討されます。現地2クラブにメークアップしました。バナー回覧します。三野輪さん、色々とコーディネート有難うございました。
- 三野輪君** 3月3~6日、RI2560地区とフィリピン3800地区とのマッチンググラントに参加して参りました。実際に現地を訪問し、地元クラブの奉仕活動を見て大変勉強になりました。研修中、野崎さんには大変お世話になりました。ありがとうございました。
- 佐藤(秀)君、田中君** BOXに協力致します。

「地域経済の現状と信用金庫の役割」

三条信用金庫
法務監査部長 地域経済研究所担当
佐川 正博 様



(はじめに)

平素は多大なご支援を頂戴しており本席をお借りして厚く御礼申し上げます。また、本日は私共の都合で会場を当ロイヤルホテルへ変更をお願いし、深くお詫び申し上げます。

本日お招きを頂き、以前山形及び水戸のロータリークラブに所属していたこともあって懐かしく感じると共に、この伝統ある三条南ロータリークラブでお話させていただく名誉に感謝申し上げます。

さっそく、地域経済情勢とこれに係る当金庫の基本姿勢について紹介させていただきます。

1. 地域経済の現状

毎月地域経済研究所では地域経済の状況について見解を公表く感じています。何故かと言えば、地域の経済指標をフロー（流れ）の観点とストック（水準）の観点からどちらを重視するかで景気の先行きに対する見方・読み方が難しい局面にあるからです。

(回復の兆しを示す指標)

- ・ 先ず、フローの観点から、研究所が毎月調査している売上高増減指標（売上高の前年比「増加先」から「減少先」を差引いた値）のこれまでの流れを見ると、一昨年のリーマンショック以降大幅な落ち込みを示した指標は、昨年の平成21年3月ないし4月を底（ボトム）に多少凸凹はありますが「底這状態」に近い動きを辿っています。日本経済全体の動きが昨年3月頃を堺に明確に回復傾向を辿っているのと比べると、当地の回復力は鈍く厳しい状況が続いていると言えます。
- ・ しかしながら、厳しいながらもここへ来て回復の兆しを感じさせる動きが出てきているのも事実です。先ほど見ていただいた①売上高増減指標は、本年2月調査のD.Iでマイナス38と前月のマイナス60に比べ悪化幅は大幅に縮小している。②業種別売上高（金額ベース）の本年1月の前年比を見ても、業種によって久しぶりにプラスに転じている先が見られ、全業種合計ベースでも減少率がかなり縮小している。また、遅行性の強い③雇用指標（有効求人倍率）も、売上高指標よりも数ヶ月遅れて極めて緩慢ながらも底を脱する兆しが見られるようになってきている。雇用調整助成金の適用企業も受給日数を縮小する向きが散見されつつある。更に、④現時点での地元企業家の3ヶ月先の「業況判断見通し」（「良くなる」マイナス「悪くなる」）を見ても、「悪くなる」と見る先の減少によりD.I指標は改善方向を示唆している。

(楽観を許さない足元)

- ・ 一方、水準の観点から見ると、とても回復などと言う感覚は及びもつかないように思われる。先ほど見ていただいた①売上高増減指標をご覧いただくと、本年2月のD.Iの値は、前月に比べ改善しているとはいえ、水準的には▲38%と大きく落込んでいることに変わりがない。②業種別の売上高をみても多くの業種で前年割れの状態が長期間続いている。例えば、持ち直している自動車部品でも落込む前に比べ7割から8割の水準に止まっているほか、建設機械に至っては4割程度までしか改善していない。他の指標を見ても、③三条市の新設住宅着工件数は21年1年間で360戸と前年の6割弱の水準（過去のピーク時の4割強、ボトム対比でも8割弱のレベル）に止まっている。④雇用の状況を表す有効求人倍率も、三条市で直近の本年1月は0.50倍と極めて低水準にある。三条市の雇用調整助成金の適用企業と従業員も、昨年12月単月で444社・7,600名に上っており、いかに厳しい状態にあるか想像に難くありません。

(不安感の強い先行き見通し)

- ・ このように、「水準」と「フロー」のどちらを重視するかによって、企業の景況感や今後の経営の舵取りも大きく変わってくる。「水準」を重視してじっと我慢しているか、「フロー」の動きを重視して今こそ動くべきか、微妙な段階にあるように思われますが、現段階では「水準」に目が奪われ慎重な見方が主流を占めているように見られる。幾つかの指標を見ていただいたように1年以上前に大底を打ったと見られるにもかかわらず、慎重な見方が強いのは、1年前に比べ「底の見えない恐怖感」は改善されたものの、その後の世界経済や金融市場、政

治情勢の行方等不安定材料（リスク要因）が大きいため、確信をもてない状態、すなわち「先の見えない不安感が依然残っているからではないか」と思います。

- ・こうした景気の岐路で経営判断は難しいと思いますが、多くの企業は「気分としての悲観主義」が強すぎるのではないのでしょうか。順調な業績を上げている企業行動を見ていると、「水準」を重視するのではなく、持ち直しの兆しを回復の「流れ」と見て、「変化」を積極的に取り込んでいく戦術を強化しているところが多いと思います。私自身も、現在の企業家に期待したいのは、慎重に先行きを見極める必要はありますが、いたずらに「悲観主義」に陥らないことが重要だと思います。

（新たなビジネスチャンスの到来への対応）

- ・現在の景気を循環局面から見れば、短期的には在庫調整の進展に伴う回復サイクル上にあると見られるうえ、少子高齢化、グローバル化、そこから派生する環境・医療・資源等に対する新しい需要と供給が求められている。つまり、構造変化を伴った長期的な回復軌道に置かれていると考えられます。それだけに新産業・新製品開発への対応には産みの苦しみがあがるものの、新たなビジネスチャンスが期待できる局面でもあるのではないかと思います。
- ・ただ、これからの日本経済は回復傾向を辿ると見込まれるものの、成長のパイは小さく、GDPで僅か1%~2%の世界であるため、闇雲に積極的に打って出るのは危険で、打って出る戦略も低売上の下での収益確保を重視した戦術でなければならない。すなわち、消費者の求める需要の変化や潜在的なニーズへの対応、付加価値の高い製商品の開発が求められます。このためには従来型の経営発想を離れ、イノベーションによる生産性を高めることが喫緊の課題となっています。
- ・なお、イノベーションと言うと、無から有を産み出すような何か物凄いことを想像しがちですが、かつてピータードラッカーは、「現在起こっていることは過去に起こったことの結果、これから起こることは現在起こっていることの結果である」。また、「変化に気づくのに25年から30年かかる。従って、自ら変化を起こそうとはせず、既に起こっている世の中の変化、すなわちお客の変化を一足早く先に掴んでビジネスに変えること、お客の変化を利用することが重要」と語っているように、中小企業だから難しいと言うことではありません。

2. 当金庫の役割

（地域連携の重要性）

- ・しかし、そうは言っても中小零細企業にとって一言でイノベーターとして付加価値の高い商品開発といっても資金的にも人材的にも高度成長時代と違って個々の企業で対応できる余地は限られ、ハードルが高いのも事実ではないかと思えます。こうした中で、中小企業が生き残っていくための課題は、個々の持てる力を横断的に活用できるネットワークシステムを構築することではないかと思えます。幸い当地は400年に及ぶ金属加工技術の集積地として、機械設備も情報もふんだんにある。しかも、個々の企業の技術力は高レベルにあります。これらの情報やノウハウを活用するために、地元に興業種交流に止まらず、大学や行政のほか、当地域の文化、歴史、自然等を含むありとあらゆる地域資源を活用できるインフラを構築することが必要ではないかと思えます。
- ・三条は、400年の金属に関する歴史と実績を背景に、良い意味で自立心・独立心の強い企業家が多いため、他社と連携することに抵抗を感じる向きもあると思いますが、低成長・グローバル化等によって経済の仕組みが大きく変貌を遂げていくことを想定すると、企業存立の基盤である地域を主体とした連携の輪を強くすることなしで生き残りは難しいものと考えられます。

（三条信金の企業支援体制）

- ・当金庫ではこうした地域連携の中でも企業間連携による地域力を高めるため、業種を超えた仲介役を積極的に果たしていくことを経営目標に掲げています。具体的には、お手元に配布した資料の経済研究所の地域貢献体制の資料に記載していますのでご覧いただきたいのですが、ポイントは、従来の地域経済の動向調査に加え、近年、「連携」をキーワードにして、直接企業の皆様の事業支援にも重点を置くようにしています。本日は時間の制約から、活動の全てをお話できませんので、ビジネス交流会と若手経営者の勉強会に絞ってご紹介させていただきます。
- ・先ず、ビジネス交流会ですが、これは信金仲間のネットワークを活用して、企業間のビジネスをマッチングさせるものですが、大きな狙いは、参加企業に情報が集積している東京の動きを知ってもらうと共に、目先の商談に止まらず参加企業間の技術や人の連携を長期的観点に立って深めていくことを考えています。平成18年以降年2回開催し昨年で9回実施しました。参加企業は延べ217社、商談数は1千件を超えています。本年も4月15日に東京新宿で開催することになっており、当地から29先の企業団体の出展が決まっています。

- ・次に、若手経営者の勉強の場として運営している「さんしん未来塾」についてですが、活動内容は、幅広い分野に亘る講演会やセミナー、視察等いずれ経営者として独り立ちする際に参考になる活動を行っています。こうした活動の大きな狙いは、企業連携の要が「ひと」にあることから、若いうちから地元の異業種の企業の優れた技術や情報を正確に理解し、かつ信頼関係を築き、お互いの強みや弱みを補い強化できる人的ネットワークを構築することにあります。理想的には、中小零細企業単独では難しい高額な設備投資や高技術者の採用、複雑な知的所有権の確立などの面で、お互いにコストをかけずに貸し借りができる仕組みができることを期待しています。

(おわりに)

- ・最後に申し上げたかったことを要約すると、当地は日本の中でも有数の地場産業を核とした生産技術や生産基盤を有している上、どんな苦難な環境でも克服していく強靱な企業家マインドがあります。これを今我々が生活しているこの地域で、地域にあるありとあらゆる資源を横断的に活用できるシステム作りを、ここにお集まりのロータリーの皆様にも積極的に関与していただきたいと願っています。また、そのために、微力ながら信用金庫も仲介役として積極的に支援していきたいと考えています。本日はご静聴有難うございました。

ROTARY NEWS



月信

国際ロータリー第2560地区
ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2560

3月号



「識字率向上月間に向けて」

—「ちがい」を大切に—

国際ロータリー

第2560地区 2009～2010年度

ガバナー 植木 康之



私達人間は一人ひとり皆ちがっています。顔や好みはもちろん、得意なこと、考え方、生き方もちがいます。この「ちがい」が個性であり、自分らしさであり、一人ひとりが社会の中で自分らしさを表現することが、人生を豊かにすると言えましょう。

私達は社会の中で暮らしていますから、当然社会と調和して生きることが必要です。

しかし調和することは、自分らしさを発揮しないということではありません。

逆に私達一人ひとりが、他の人々の中で、自分らしさを生き生きと表現することで、本当の調和が生まれるのではないのでしょうか。

いつの間にか、自分が何をしたいか考えるのではなく、回りの人から「ちがう」とか「遅れている」と思われぬように、ということに一生懸命になっていないのでしょうか？

「みんなと同じでなければならない」という気持ちは、子育てにも現れているようです。自分の子供が「みんなと同じ」だと安心し、「一人だけちがう」と不安になることはありませんか。子供達は敏感にこうした大人の気持ちを感じとり、無意識のうちに「みんなと同じ」になろうとしているのではないのでしょうか。また時には、自分らしさを出したために、一時的に仲間はずれにされることがあるかも知れません。嫌われることもあるかも知れません。しかし、それで不安になり自分らしさを出すことをやめ「みんなと同じでなければ安心出来ない」と考えてしまうのは、マイナスの考え方です。

もっとプラスの方向に考えてみてはどうでしょうか。その経験を、自分自身が成長して行くための絶好の機会だと考えてみてはどうでしょうか。どうすれば皆と協調しながら、自分らしさを発揮していけるかと考えるための貴重な経験として生かして行くのです。この経験を通して、私達は自分が自分らしさを発揮するためには、逆に自分と違う考え方をする人を理解し、その「ちがい」を尊重しようと努めることが、いかに大切であるかを知ります。そしてお互いの「ちがい」を認め合ったうえで、協調していけるように考え、話し合うようになるのです。

その積み重ねによって、私達はそれぞれの「ちがい」を尊重し、他の人がその人らしさを発揮するのを温かく見守る、広い心が持てるようになります。これは同時に、何が自分らしさなのかを、はっきり理解出来るようになることでもあります。私たち一人ひとりが、自分という者をしっかりと理解し、他の人との「ちがい」を受け入れられるようになることが、誰もが伸び伸びと調和して生きられる豊かな社会を築き、国際社会の中でも調和してゆくことにつながるのです。そして私達は、一人ひとりの「その人らしさ」を、かけがえのない貴重なものと感じるようになり、広く全ての人をいつくしみ、愛せるようになるのではないのでしょうか。

チリの各地区が地震被災者援助に総力

去る2月27日に同国の太平洋沿岸部を襲った強い地震と津波により壊滅的な打撃を受け、住居を失った何万人もの人々の救援に、チリのロータリー各地区が総力を上げています。

死者数が800人近くに上る中、チリ政府は国際援助組織と協力し、危機的な状況にある生存者に食糧と水を提供しました。沿岸部の多数の町が、マグニチュード8.8の地震と、その後押し寄せた津波によって壊滅状態にあります。

第4320地区ガバナーのルイス・ベリーズ・セヴェリノ氏は、救済活動に当初の資金として9,500米ドルを充てました。最も被害の大きかったピオピオとマウレ地域の4クラブは、衣服、靴、毛布の寄贈活動を開始しました。

シェルターボックスの救援チームは、最初の448箱のシェルターボックスを届けるため、すでに首都サンティアゴへ向かっています。サンティアゴ・ロータリー・クラブは3月3日の緊急会議で、シェルターボックスをどの地域に配給すべきかを救援チームとともに話し合いました。シェルターボックスのジョン・リーチ業務主任は次のように語っています。「チリでの被害の全貌はまだわかりませんが、緊急避難所は間違いなく必要になるでしょう。われわれの救援チームはサンチャゴのロータリアンと緊密に協力し、救援物資を最も必要としている人たちに必ず届けます」

被災地にいたロータリー国際親善奨学生6人については、無事との報告が入っています。

ジョン・ケニーRI会長はチリの第4320地区、第4340地区、第4350地区、および第4360地区のガバナーにEメールで追悼の意を伝えました。また会長は、ロータリーの救援活動の最新情報とロータリアンによる支援方法について www.rotary.org で確認するよう呼びかけています。



この辺でちょっと一休み

江戸小咄

変身

しわん坊のお噂でございますが、「ここなら誰にも盗まれまい」と、溜め込んだ金を壺に入れ、庭の隅に埋めながら「誰かが掘りおこしたら蛇になれよ」と言っておりますのを盗みぎきた男が早速、金を盗んで蛇を入れておきます。しばらくしてくだんの男、掘って改めますと蛇が入っておりますので、「やい。俺だ、俺だ、見忘れたか」
(寛永五、醒睡笑)
東京銀座元会員・岡田晃雄著
「江戸小咄和英文柄」から

表紙について

速水 御舟 (はやみち ぎょしゅう)
東京出身(1894-1935)
■「春池温 桃花鯉魚」
1933年(昭和8年)作
山種美術館蔵
ロータリーの友 1992年3月号表紙より

三條南ロータリークラブ週報
2010. 3. 8
No.1945 No.28